

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎理化学	前半は理学療法を学ぶ上で必要な理科系知識を振り返る。後半は理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学ぶ。	1前	60	2		○		○				
○			医療概論	医療に関する歴史や定義を通じて、我が国における医療の位置づけを学ぶ。近年、取り上げられることが多くなってきている予防領域についても学習する。	1前	30	2	○			○				
○			コミュニケーション論	本科目では、コミュニケーションの基本的スキルを身に着ける演習及び傾聴の意味を理解し、医療人・社会人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。	1前	30	2	○			○				
○			心理学	人間理解の方法を心理学的観点から解説する。さまざまな心理アセスメント方法を学ぶ。	1前	30	2	○			○				
○			人間発達学	先人たちの記述した論文を検索し、論文や、検査結果の判定に用いられる基準値、基準範囲について学び、対象者の問題に側した情報を集め、知識を整理し、解決のための能力を培う。	1後	15	1	○			○				
○			情報統計論	人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続するためのエネルギーの仕組みについて。主に動作での関節運動の記載方法から支持基底面や重心の関係、力学的な分析を行う。	1前	30	2	○			○				
○			基礎運動学	筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続する仕組みについて解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。	1通	60	2		○		○				
○			医療基礎統合論	運動器系を構成する骨・関節・靭帯・骨格筋について、それらの一般的な機能と、個別の機能を学ぶ。	1後	60	2		○		○				
○			人体構造・機能学Ⅰ	理学療法を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで、人体の構造と仕組み・機能について理解することを目的とする。	1前	30	2	○			○				
○			人体構造・機能学Ⅱ	理学療法士として診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、運動器系を構成する骨・関節・靭帯・骨格筋について、それらの一般的な機能と、個別の機能を学ぶ。	1前	30	2	○			○				
○			人体構造・機能学Ⅲ	神経系の構造から、正常な神経の機能や役割について理解する。脳の各機関の役割や局在性を理解し、運動と神経生理学のつながりを理解する。	1前	30	2	○			○				

○		人体構造・機能学Ⅳ	循環器、呼吸器に関する構造と機能を学び、理学療法実践者としての基礎的な知識を身につける。	1後	30	2	○			○	○		
○		人体構造・機能学Ⅴ	人体の構造と仕組み・機能について理解することを目的とする。	1後	30	2	○			○	○		
○		人体構造機能演習	人体構造機能学で学んだ骨・靭帯・筋・神経・動脈について、模型のデッサンや触診技術を通じて、周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。	1後	60	2		○		○	○		
○		基礎病態論	基礎医学領域と臨床医学領域の間に位置し、解剖生理学的知識をもとに様々な疾病の成因や病態を明らかにしようとする学問である。	1後	30	2	○			○	○		
○		臨床病態論	基礎病態論を踏まえて、様々な症候に対して行われる画像検査、生化学検査、生理検査などの諸検査の所見、治療に用いられる薬剤の薬理効果について学び、リハビリテーション医学領域を俯瞰する。	1後	30	2	○			○		○	
○		臨床心理学	臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院12年の実務経験を活かし、心理学的観点から患者を解説する。理学療法士として多様な精神疾患を抱える患者と向きあうためのアプローチ方法を身につける。	1前	30	2	○			○		○	
○		精神疾患論	精神障害をもたらす精神疾患の病状・成因や診断・治療について理解し、それらを基に理学療法士としての精神障害者への社会生活面での援助のあり方を習得する。	1後	30	1	○			○		○	
○		整形障害論	リハビリテーションで、対象となる筋骨格系障害の病態を理解し、整形外科的治療を理解する。	1後	60	2		○		○	○		
○		内部障害論	循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、各種病態の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。	1後	60	2		○		○	○		
○		神経障害論	各論として脳血管障害と神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について理解を図る。	1後	60	2		○		○	○		
○		発達障害論	種々の疾患の発症要因と病態を理解できる。また、頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し、それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに、障害を有した小児に対する医学的な評価法等の概略を学ぶ。	1後	15	1	○			○	○		
○		老年学	加齢とともに変化する身体機能、精神機能を整理し、疾患像をイメージできる。	2前	30	2		○		○	○		
○		リハビリテーション概論	医療保健福祉制度について理解する。また、理学療法を受ける患者や利用者の様々なニーズに対して対応できるように、保健・医療・福祉の各領域についての法制度の動向やサービスの内容を理解する。	1前	30	2	○			○	○		
○		多職種連携論	講義では、医療の枠にとらわれず、これから健康・医療・福祉の専門職を目指すものとして、対象者を中心としたチーム医療の意義、多職種間のコミュニケーションの知識・技術およびその重要性を学ぶ。	1後	30	2	○			○	○		

○		生活環境論	障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。	1後	30	1		○	○	○								
○		運動療法総論	新人理学療法士として勤務する上で必要と思われる運動療法の基礎的な原理と方法を学ぶ。	2前	30	1		○	○	○								
○		臨床運動学	起居動作や歩行のシーケンスとバイオメカニクスを学び、動作・歩行分析が行えるようにする。起居動作や歩行動作の各シーケンス、フェイズにおける筋活動を動作をしながら説明出来るようにする。	2前	30	2		○	○	○								
○		理学療法管理学	組織の能力を最大限に発揮させるための具体的な職場管理・理学療法教育について系統的に学び、職業倫理を高める態度を養う。	3前	30	2		○	○	○								
○		理学療法評価学	理学療法の一連の流れにおける評価の位置づけを説明し、評価の意義・目的について理解する。	1後	60	2		○	○	○								
○		理学療法評価学演習	評価方法の種類、主な検査測定項目、評価結果の記録・解釈について説明する。また、各種の評価結果を統合・解釈する方法を学び、疾患の症状について理解を深める。	2前	120	4		○	○	○								
○		理学療法評価技術論	各症例情報をもとに基礎的知識の確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく。	2後	120	4		○	○	○								
○		整形障害理学療法	整形障害領域の理学療法評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする。	2前	60	2		○	○	○								
○		神経障害理学療法	中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。	2前	60	2		○	○	○								
○		内部障害理学療法	循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。	2前	60	2		○	○	○								
○		物理療法学	基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。	2前	30	2	○		○									
○		義肢・装具学	装具について医師や義肢装具士などと十分な議論を交わすことのできる能力は、作成する能力以上に求められる。授業では、様々な装具の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。	2前	30	2		○	○	○								
○		理学療法技術論Ⅰ	理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。	3後	180	4		○	○	○								
○		理学療法技術論Ⅱ	理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。	3通	180	6		○	○	○								

○		理学療法技術論Ⅲ	理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。	3通	180	6		○	○	○									
○		日常生活活動学	障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念である。その概念とQOLについて理解を深める。	2前	60	4	○		○	○									
○		地域リハビリテーション学Ⅰ	地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。	2前	15	1	○		○										○
○		地域リハビリテーション学Ⅱ	地域リハビリテーションの中で、理学療法士が行う実践活動を見学するまた、グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。	3前	15	1	○		○										○
○		臨床実習Ⅰ	医療人・社会人としての意識を高め、自己が目指す理学療法士という職業を再確認する。今後の学習の必要性を認識し、学習意欲を高める動機づけにする。	1通	45	1			○		○	○	○						○
○		臨床実習Ⅱ	実習施設の機能や特徴を把握し、理学療法士の業務と役割、他職種との連携、患者との関わり方について学ぶ。	2後	270	6			○		○	○	○						○
○		臨床実習Ⅲ	実習指導者のもとで検査・測定の実践を行い、患者のもつ諸問題のうち理学療法の適応となる問題を把握するため、評価結果から問題点を抽出できるようにする評価実習とする。	2後	270	6			○		○	○	○						○
○		臨床実習Ⅳ	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに関する実習とする。	3前	45	1			○		○	○	○						○
○		臨床実習Ⅴ	総合臨床実習とし、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定について実習を行う。	3通	270	6			○		○	○	○						○
合計				48科目	3120単位時間(100単位)														

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：本校に3年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。 履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。